

1 学校教育目標

○かんがえる子
(知)

○やさしい子
(徳)

○げんきな子
(体)

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童が通ってよかった、保護者が通わせてよかった、教職員が勤めてよかった、地域が誇りに思える学校 ○安全安心で、未来の人材を育てる学校
○児童・生徒像	○よく学び、友達に優しく、体力や免疫力を高めることのできる児童を育てる学校 ○よく考え相手の気持ちを聞きながら学び合える児童
○教師像	○あいさつがしっかりでき、思いやりをもって礼儀正しくできる児童 ○積極的に運動に取り組み、病気に負けない健康な体をつくろうとする児童
○教師像	○児童が主体的に取り組む授業を実現するために常に学び続ける教師 ○児童に深い愛情をもって笑顔で授業できる教師
	○メリハリをつけた指導で学校に来ることを楽しみにさせる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

- 通常学級19学級、特別支援学級4学級、全23学級、児童数約600名。(パソコンルームを普通教室へ改築し学級増できない校舎へ)
- 若手教員が年々増えているが、チーム西伊興として一体になって教育活動に取り組んでいる。
- 学校公開の他に5回の土曜授業を公開し、体育公開授業やSDGs学習を中心に家庭・地域・学校が連携しながら学校教育を推進している。
- 大きな感染症拡大がなく、一日平均病欠欠席者数が大きく減少している。
- 令和6・7年度は、東京都体育健康教育推進校に指定されている。

(2) 前年度の成果と課題

☆前年度の成果

- 区学力調査目標値通過率は過去3年間より微減したが、通過率84.1%、平均正答率76.7%を維持している。
- 小中連携における取り組みも含めて、授業における学び合いの時間が増えている。
- 学校図書館が読書だけでなく学習センター・情報センターとしての機能を高めている。
- いじめ早期発見・早期解決100%を実現し、被害児童・加害児童の成長のための教材にできている。
- 道徳教育を中心に相手意識をもって学び合う時間を設定し、自分の生活に生かせるようにしている。
- 不登校傾向の強い児童に関しては丁寧なケース会議を継続し、一人一人に合った学びの場を少しでも多く設定できるようにした。
- 異年齢集団活動や全校集会、業間体育等の取り組みにより、特別支援の必要な児童を含め多様性を学び合う機会を増加させた。
- 東京都体育健康教育推進校としての取り組みを含め、体力向上・免疫力向上に注力することができた。昨年度比で一日平均病欠欠席者数が11.1人減少している。

★前年度の課題

- 新6学年の算数・新3学年の国語の調査結果を分析し、つまづき部分を解消できているか明確にする。
- 高学年（中学生も含む）になるほど意見発表が減少していく。多様な意見を検討した方が学びを深められることを実感させていく。
- 学校図書館の活用が学年によって差がある。読書やICTだけでなく、国語科以外の学習においても活用できる情報を共有していく。
- 合理的配慮を有する児童や不登校傾向の強い児童にできるだけ個別最適な学びを提供できるように、特別支援委員会や教育相談会等の機会を通して、管理職・生活指導主任・特別支援コーディネーター・教育相談コーディネーター・臨床心理士・SC・SSW・SA等、様々な人材を活用できる機能を継続していく。
- 多様性を認め合う場面を増やせるよう、異年齢集団や全校で触れ合う学び合いを充実させていく。
- 令和7年はデフリンピックが実施される。オリパラ教育に加えて、SDGsラジオを活用しながら視覚障がい者の理解を深めさせていく。
- 欠席者数は大きく減少しているが、12月以降の欠席者は4～11月に比べて大きく増加した。寒さや乾燥に備えた知識を増やし、日常生活の中で体調を崩さないための実践力を培っていきたい。
- 学校教育全体を通して、変化の激しい今後の社会を生き抜いていけるよう、思考力・判断力・表現力をさらに身に付け、レジリエンスを高められるようにしていく。
- 交通安全やSNSの使い方、放課後の遊び方、生活リズム等、学校だけでは教えきれないこと、確認しきれないことがたくさんある。これまで同様、学校から積極的に情報発信し、家庭・地域との連携を深め、児童を総合力で育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	協働的な学び合いの推進	○	○	○	○	○
3	体力向上と病気の予防	○	○	○	○	○
4	働き方改革		○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
主体的・対話的で深い学び合う授業 90%		目標値通過率 90%		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全学年 体育科及び全教科	年間	・校内研究（体育科）8回の研究授業及び2月の体育健康教育推進校授業公開及び最終発表 ・体育科の学びを他教科の授業展開に活かす ・管理職、主幹教諭、教科指導専門員による若手教員の授業力向上	・令和6年度の成果と課題を活かした研究協議会になっているか ・職員夕会やC4th 掲示板で体育以外の教科の授業案を共有する時間を確保 ・若手教員の授業が足立スタンダード虎の巻を活かした授業展開になっているか	・8回の研究協議会内容と白幡先生の指導・助言内容を確認 ・国語科、算数科、社会科、理科等で年間3回の自己申告の授業観察 ・教科指導専門員と常に情報共有し、課題に関しては随時、管理職と主幹教諭が指導・助言	自己評価の際に記入		

2 継続	小中連携における 共通実践	全学年 全教科	年間 7回	・「主体的・対話的で深い学び合いを実現する指導の工夫」を全体テーマとし、各分科会のテーマを設定して共通実践させる ・「自分の考えを発表したり伝えたりする」話し合いの場面を重要視させる	・5月の全体会で伊興中学校と小学校3校の全教員にテーマを周知徹底 ・授業公開後の研究協議会でテーマに即した授業展開ができているか ・児童生徒が主役になった話し合いが行われているか	・小中連携教育研修会の欠席者にも周知できるよう、毎回C4thで情報共有させる ・各分科会で指導助言を行う管理職の情報を共有し、授業において共通実践できているかを確認 ・話し合い活動が十分に行われているかも確認			
3 継続	学校図書館の活用	全学年 国語科及び全教科	年間	・最低限の読書量を確保しながら、教員への図書貸し出し冊数を調査 ・読書以外の学習に活用の少ない学年及び教員に指導・助言	・6月と10月と2月に読書旬間を実施 ・図書支援員、図書ボランティア、伊興図書館との連携を継続 ・国語科以外の図書館活用例をC4th掲示板に定期的に掲載	・児童一人あたりの貸出冊数は区平均を維持（約24冊） ・雨天時休み時間の図書館活用の奨励 ・社会、理科、総合的な学習等での実際の活用を周知し、学習場面における図書館センター機能を高める			

4 継続	I C T 機器 の 効果的 活用	全学年 全教科	年間	・問題に対する見通しや友達の意見を視覚的に捉えやすいように電子黒板やタブレットを活用 ・学習の基礎基本の定着を図るためにA I ドリル（特に算数）を活用 ・検討場面において一人一人の意見を短時間で把握するのに効果的な場合はI C T 機器を活用 ・教職員のI C T 機器活用能力の向上	・授業の中で児童が問題解決の見通しを全員もっているかを授業観察で確認 ・A I ドリルへの取り組みは、毎月実態把握し必要に応じて助言 ・I C T 機器を使った話し合い活動は高学年から実施 ・実際に活用している方法を共有する	・毎日の校内巡視、自己申告授業観察、教科指導専門員との話し合い等で、実際の授業から指導・助言 ・A I ドリル実施状況のデータを共有し、必要な教員に指導・助言 ・中学年はトライアル期間と捉えて把握 ・I C T 機器活用研修会を3回実施			
5 継続	E S D - S D G s への 取り組み	全学年 各教科及 び領域	年間	・各学年の実態に応じた効果的な取り組みを継続 ・高学年が取り組む食品ロス問題や国際理解は人権教育ともリンクしながらE S D - S D G s へ取り組ませる	・体育健康教育推進校の取り組みとリンク可能な場合は積極的に推奨 ・「外国人」「オリパラ」等、人権課題とリンクする場合は意図的に人権教育を盛り込ませる	・全学年の取り組みを一覧表にし、実施状況を確認 ・新しい取り組みの効果検証を行い、令和8年度に引き継ぐか協議 ・地域の方々と連携するときは「高齢者」という人権課題を意識させる			

6 継続	協働的な 学び合い	全学年 教育活動 全体	年間	・協働的な学び合いの充実が「思考力・表現力・判断力」の育成に直結していることを全教職員・全児童に周知 ・家庭教育においても話し合うことが大切であることを啓発 ・縦割り班活動の目的を明確にし、上級生が下級生をリードしながら学び合わせていく	・教科指導のみならず、休み時間や給食、放課後の時間でも相手の話を聞こうとしているか ・自分の考えを発信する機会を増やし表現力を培う ・配慮を要する児童も活躍できる特長を最大限に生かしていく	・年度末アンケートにおいて「友達の意見をよく聞いた」90%以上 ・家庭での会話が子供を育成する重要な要素であることを公式LINEやブログで発信 ・縦割り班での読み聞かせは必須で実施			
7 新規	個別最適な 学びの実現	全学年 教育活動 全体	年間	・そだち指導の継続 ・不登校傾向の強い児童への学習指導 ・個性の強い児童への学習指導 ・基礎基本を活かした発展学習指導	・学力調査結果分析でつまずきの解消を目指す ・校長室、保健室、会議室、相談室等で可能な学習指導 ・SAのサポート内容を明確にし教室内で個別最適な学びを目指す ・各教科及び領域において発展的学習を可能な限り実施	・そだち指導の児童全員の目標値通過 ・学校へ登校することを一番の目標にし、国語や算数の基礎基本を指導 ・一人一人の課題を把握し、落ち着いた学習環境の構築100%実現 ・まとめや振り返りの時間において可能な児童は発展的課題に取り組ませる			

重点的な取組事項－２		協働的な学び合いの推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実		年度末アンケート 「相手のきちんと聞けた」 「相手の気持ちを考えて行動できた」 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教育活動全体において対話的で深い学び合いを目指す	・各授業の検討場面における「自分の考えを発表し友達の意見をよく聞いた」90%以上 ・縦割り班活動の再開と全校集会を月2回以上実施	・年度末アンケートをとり達成状況を確認 ・特別活動部と連携し、スマイルペア班を縦割り班に復活させる ・縦割り班活動の状況を見ながら改善していく	自己評価の際に記入		
人権教育・道徳教育の充実	・年間指導計画に基づいた人権教育の実施 ・毎時間の道徳授業における振り返りで「よく考えた」90%以上	・「SNSや外国人、高齢者」等、現代だからこそ巡り合う可能性の高い人権課題についてしっかり理解させる ・人権教育も道徳教育も学校外で実行できる力を身に付けさせる ・道徳授業地区公開講座を通して、家庭や地域との連携を強化する			

いじめの早期発見、早期対応、早期解決	・いじめは0になることはないことを大前提にし、児童の成長のための事例教材にしていく	・学校生活における児童の様子を教職員全員で共有 ・いじめ調査を活用し、課題があれば即対応 ・ポジティブ行動支援を意識し児童や教職員のプラス思考を高める ・SNSや放課後に関するトラブルは家庭・地域と連携し、学校はチーム対応が基本			
特別支援教育の充実と実効性のある不登校対策	・教職員及び全児童が合理的配慮を理解しながら行動 ・特別支援学級と通常学級とのさらなる交流 ・実現可能な不登校対策を実行し、保護者や地域へ学びの多様化を継続的に発信	・特別支援学級や特別支援教室との連携、特別支援教育研修会の実施等で理解を深める ・学校行事だけでなく、通常の授業においても可能な限り交流を増やしていく ・不登校は問題行動ではなく学びの多様化の一例に過ぎないことの共通理解を深める ・教育相談部を中心にケース会議を1年間継続させ、児童の変容や保護者のニーズを把握しながらタイムリーな方法で登校支援			

重点的な取組事項－3		体力向上と病気の予防			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	体力向上の取り組みを通し、免疫力を高めながら、毎日元気な笑顔で登校させる	・スポーツテストの結果 ⇒区平均値と±3ポイント ・「体力を高めたり病気を予防したりした」90%以上 ・「健康であるために運動をやりたいと思った」90%以上	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業の充実	・体力向上のための運動量を確保 ・校内研究の成果と課題を共有し授業改善を図っていく ・運動の日常化 ・学校外での運動機会を増やしていく	・授業展開を明確化し毎時間25分以上の運動量を確保 ・体を動かす心地よさを体感させ、運動の楽しさや喜びに触れさせる ・休み時間や放課後の遊びにもつながる教材の工夫 ・土曜授業における体育科学習公開の継続。可能ならば保護者や地域の方々も参加	自己評価の際に記入		
健康教育の推進	・東京都体育健康教育推進校指定における成果発表 ・一日当たりの欠席者数マイナス5人	・体育、保健、生活科、食育、総合的な学習、業間体育等で体力向上だけでなく、規則正しい生活習慣定着、生涯スポーツにつながる運動体験、免疫力を高める取組を継続させ総合的に健康教育を推進 ・令和6年12月現在で前年度比25人以上減少。令和7年度はさらなる減少を目指す			
縄跳びの全校実施	・長縄～区の目標値達成 ・個人のめあて達成80%以上	・1～2月にかけて重点期間を設定 ・学校での取り組みを家庭や地域へ周知し、学校生活以外での体力向上への意識を啓発 ・次年度スポーツテストの20mシャトルラン結果で成果と課題を把握			

オリパラ教育の継続	・スポーツ志向を高める ・多様性を高める	・オリパラ経験者やスポーツ専門家を招聘した体育授業を実施 ・パラリンピックやデフリンピックの意義を知り、障がいがあってもスポーツを楽しむことを理解			
-----------	---	--	--	--	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

